

大田区職員9条の会ニュース

第116号 2016年12月19日 編集 大田区職員9条の会事務局
大田区職員労働組合気付

沖縄・福島は今 ～神田香織さん語り&現地ツアー報告～ - 11月29日に開催され90人が参加 -

11月29日（火）消費者生活センターで、戦争させない1000人委員会東京南部主催（南部全労協協賛）の『沖縄・福島は今～神田香織さん語り&現地ツアー報告～』が開催され大田区職労組合員をはじめ90人が参加しました。



12月10日 日比谷野外音楽堂で開かれた「高江オスプレイ・パッド、辺野古新基地の建設を許さない！東京集会」3900人が参加した。

はじめに、南部全労協が今年10月2日～5日に行なった沖縄ツアーについて、ビデオ動画で報告がありました。本土ではほとんど報道されない、米軍のオスプレイ用ヘリパッド建設工事を強行する日本政府の姿を生々しい映像で見ることによって、日本政府の沖縄に対する横暴ぶりが伝わり、報告会に出席した沖縄ツアーの参加者と報告会で初めて本場の沖縄の現実を知った参加者が、日本政府に対する怒りを共有しました。

次に、福島原発ツアー南部実行委員会が10月29日～30日に行なった「第4回原発

被害者との福島交流・視察ツアー」が、写真を交えて報告されました。浪江町の希望の牧場での視察や飯館村エコロジー研究会の伊藤延由さんの講演の様子などが話されました。

続いて全労協青年委員会が同じ日程の10月29日～30日に行なった福島フィールドワークについて報告がありました。除染をめぐる状況と現状、国の帰還政策（帰還困難区域・居住制限区域・避難指示解除準備区域）の現状と矛盾、原発事故からの復興の難しさについて、現地ではわからない事実を伝えることで、福島原発事故を決して風化させてはならないことが訴えられました。

最後に、講師の神田香織さんの語りがありました。神田さんは、沖縄は辺野古の新基地建設や高江のオスプレイ用ヘリパッド工事の強行、福島は高線量の故郷に帰還させられるということを挙げ、「沖縄も福島も人権を無視されている」と語り、会場内から「そのとおりだ」との共感の声が上がりました。

沖縄・福島の人々に対する日本政府のやり方は、あまりにも横暴すぎます。こうした状況に対して、私たちも共に声をあげ、周りに拡散していかなければならないと感じた集会となりました。

12月13日 沖縄県名護市沖で起きたオスプレイ「不時着？(墜落)」事故に抗議する！

小ホールは満席

「私は二十数年で百数十か国を訪ねました。会にふさわしい文化的でハイレベルな方にいつも講演を依頼しています。」会長の挨拶にちょっと格差を感じる。11月23日(水)大田区民プラザで田園調布九条の会主催秋の文化講演会。

講師孫崎亨氏(元外務省国際情報局長)は語る。

安保条約では「自国の憲法上の規定及び手続きに従って共通の危険に対処するように行動することを宣言する。」となっている。そしてアメリカ国憲法では、戦争の宣言は連邦議会の権限である。つまり、日本が侵略された場合即アメリカ軍が反撃してくれるわけではなく、まずアメリカ連邦議会の承認が必要です。

さてアメリカは日本を守ってくれる気持ちあるのでしょうか? 2006年沖縄国際大学にアメリカ軍ヘリコプターが墜落したとき軍が現場を封鎖し日本の消防、警察、行政、大学関係者は立ち入れませんでした。またアメリカ軍人が基地外で事件を犯し基地内に逃げた場合日本警察は身柄を拘束できない。

日本を独立国家と認めているならば日本国内では日本の法令を守ってもらいたい。アメリカ国日本出張所と思われるのでは? (SEALDs 調布のイケメン)

沖縄 自然の中で感じた この環境を壊しているものの正体

12月4日~8日まで東京全労協の人たちと沖縄に行ってきました。主な見学先は、今まさにオスプレイパッドが作られている沖縄北部の東村高江でした。

自然豊かな「ブロッコリーの森」高江

高江の森は通称ブロッコリーの森と呼ばれている。希少生物の「ノグチゲラ」や「ヤンバルクイナ」も生息している。ここの樹木を切り倒し、赤土を掘り崩して作られているものは、「オスプレイパッド」(オスプレイの離発着帯)だ。オスプレイは、騒音と低周波をまき散らし、不安定な状態で飛ぶのでよく事故を起こすことが知られている。現実には、すでに作られている箇所の近くに住んでいた人たちは騒音に悩まされ引っ越しをしてしまった。

こうした中、地元住民は、建設の差し止めの仮処分申請をしていた。しかし、私たちの滞在中の12月6日この仮処分申請は却下されてしまった。住民たちは「国策追従の判決だ」として即時抗告した。

12月22日「米軍北部訓練所」が一部返還

この「オスプレイパッド」が作られる米軍北部訓練所の一部が返還され12月22日に記念式典が行われる。日本政府は「米軍基地の整理縮小への大きな前進」と言っているが、アメリカ軍は「使用不可能な51%の部分を日本政府に返還する。そして、限られた土地を最大限に活用する訓練所が新たに建設されている」(海兵隊「戦略展望2025」)というように、使えない土地を返す代わりに使い勝手の良い「オスプレイパッド」の建設を日本政府に要求している。

私たちが滞在中も、22日の記念式典に間に合わせるためか県の労基署すらも「工事現場の安全基準が守られていない」と言うほどずさんな状態の中で突貫工事が行われていた。この工事現場を守るため全国から派遣された機動隊が工事現場ゲート前に座り込む私たちがカブクで排除する中で、ダンプカーによる砂利の搬入やヘリコプターによる物資の搬入が続けられた。

環境影響評価も満足に行われず、この工事がたとえ形だけ「完成」しても破壊された自然は元には戻らない。「返還された所」を「自然遺産」に申請しても、すぐそばには自然を壊した軍事施設があるという事実をどう説明するのだろうかと思った。

